

## Q ごみ処理の共同化とは

## A 安定的な運営のために



▲雫石町から搬入されるごみ

**Q1** 原油高騰による石油製品や食糧品の値上げなど、あらゆる産業と国民生活に多大なる影響を与えている。

当会派の要望に健康日本一を目指すことを示したが、長生が幸福と云いきれない実態がある。村長は、政治は弱い人のためあるべきと述べていたが、村は今、何をすべきか次に質問をします。



山本 博議員(新志会代表)

① 既存の村借金は10年余で返済できる程度であり、村債残高を130億円以下とすることは認められるが反面、住民要望に対応する財源は確保できるか。交流拠点複合施設は早期に着手してはどうか。

② 健康日本一についての所見、4月以降の国保会計見通し、後発薬品の普及をどのように進めるか伺います。

③ 安全な食糧を如何に確保し、村民に提供するか、産業としての農業をどのように確立するか。

④ ごみ処理の一部事務組合について、雫石町の意向はどうか、溶融炉の維持費は。

⑤ 全農岩手滝沢牧場が三年目となるが、ETセンター・土地などの賃貸の動向を伺います。

**A1** ① 22年以降の村債は、約4億円であるが、プライマリーバランスを考慮し、普通建設事業費の確保を図ってまいります。複合拠点交流施設は手法を含め今後

検討します。

② 健康日本一を目指すことは非常に大切なことですが、各個が主体的に取り組むべきと考えます。健康に関する各事業を推進しており、誰もが元気に暮らせるまちづくりをめざします。

③ 村内で生産された農産物は、安全性は確保されているが、全量を村内提供していません。産直等を通じ、積極的な地産地消を推進し、安全な農産物の提供をしてまいります。

④ ごみ処理は、雫石町との共同処理により継続的、安定的な運営を行ないます。事務レベルでの学習会を開催しており、今後定期的な会議の中で、方向性を定めます。

⑤ 全農滝沢牧場の事業展開は、肉牛繁殖農家の生産性向上など期待されています。ETセンターの受精卵提供など、畜産振興につながることを期待しています。

## Q 産業構成比率の是正は

## A 産業振興策を積極的に

高橋 寿 議員  
(春緑クラブ代表)

▲ふるさと交流館近くにオープンする「産直チャグチャグ」

**Q1** 本村の、産業構成比率は一次産業19%、二次20.6%、三次77.4%であり、三次産業に特化した、歪な産業構造になっていきます。つまり、可処分所得の減少が地域経済に直接的に影響を与えることから、不況に脆弱な構造になっていきます。

先般のアンケート結果は合併反対が60%強であり、民意は単独村政の継続を望んでいる事が明らかになりました。この事を踏まえ、相応の行政サービスや財政の健全化のため、

**A1** 産直チャグチャグは6月13日にオープンします。本村としても、専業農家の支援・育成はもとより兼業農家の育成支援策として産直が有効な手段と認識しています。村の重点施策の一環

一次・二次産業の振興に傾注するべきと考えます。一次については、地産地消・産地直売所を、二次は（仮称）イノベーションセンターを起爆剤に、産業の振興に努めて頂きたいが考えを伺います。

**A2** 本村としても学校や障害者の施設の利用拡大を積極的に支援して参りたいと考えています。また、馬も購入したいと考えています。

**Q2** 馬っこパークはNPO法人「乗馬とアニマルセラピーを考える会」が引き続き事業継続する様であります。村有の馬を持ちたい意向を村長がしめされていましたが、是非所有して頂き馬っこパークを利用して頂きたい。また、チャグチャグ馬コ祭を一過性ではなく通年展開し、更には既設の建物を馬コ資料館として併設するなど観光拠点として位置付けて頂きたいが、考えを伺います。

## 馬っこパークを観光拠点に

でもあり、積極的に支援してまいります。

二次産業の企業誘致については西リサーチパークへの誘致をすすめており、昨年1社、本年3月末に1社と調印する事になっていきます。村内には3つの大学があることや、北東北の要衝としての交通条件があり、本年完成するイノベーションセンターを企業の呼び水として誘致に努めてまいります。